

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 23

2020.5.18

## 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行

NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224

滋賀県高島市安曇川町上小川 225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740(32)4156

## 新型コロナウイルスと

## 藤樹を生んだ高島の風土

高島藤樹会 理事 川島 達郎



どうしたか。昨  
となのか。昨  
年世紀の御代  
替りで、穏や  
かで風情あふ  
れるイメージ

の令和に元号が改まったばかりであると言ふのに世の中は全く裏腹にコロナショックで打ちひしがれている有様だ。この様な最中に、一応私も及ばずながら会員の末席を汚させて頂いている関係で高島藤樹会より原稿の依頼を受けた。平静になれない中で事もあろうに藤樹先生に多少なりとも因んだ想いを述べるには内心忸怩たるものがあるが、お許しを得て述べる事にする。

書き綴っている四月十二日の時点では全く終息の兆しが見えないどころか感染拡大の一途をたどっている。恐らく経済的影響は、第二次世界大戦以降で最も急激な未曾有の経済の落ち込みになり、これからは私達が今までに見たこともないようなショックキングな状況を目にする事になるだろうと言われている。既にパンデミック(感染症の世界的大流行)の様相を呈しており、まるで見えない敵によって世界中の人類に挑

み襲い掛かってくるさながらSF映画のエイリアンそのものようである。

しかし私は全く別の事を考えている。今回の新型コロナウイルスの発生は、人間が地球規模で天然資源等を求め、森林をはじめとした大規模な自然破壊を続けている事と決して無縁ではないと思っている。人間と離れて静かに暮らしていた野生生物たちが、住みかや餌を失い生態系を壊されて人の生活圏に出没するようになり、人間の近くにいる家畜やペット等を介して新たなウイルスを生み出している様に思えてならない。エボラ出血熱、鳥インフルエンザが、SARS(重症急性呼吸器症候群)など全て然りだ。これらは明らかに、人間社会がエゴと我欲で突き進んできた自然破壊がもたらした天からの警鐘乱打、鉄槌を下されたと思えるべきだと思う。

政府は四月七日に緊急事態宣言を発出し日を追う毎に感染者数は増え続けているが日本は世界と比較してまだまだ少ないほうであり、気の毒にもお亡くなりになった方も極めて少ない。さらに着目すべき事に、我が高島市からは今のところ感染者は皆無だという事実だ。人の暮らしと多様な生き物を育む自然がみごとに共存し、調和している、いわば日本の美しい原風景、いわゆる里山が随所に散見できるのが私達の郷土であ

る。そして自然と人間の調和の接点として鎮守の森が存在し、その周辺に集落が形成され地域社会が守られてきた。蛇足ながら私は昨年と一昨年にわたり氏神の宮世話を務めさせて頂いた。決して宗教的ではなく、自然に対して畏敬の念を払う事は日本人であれば極当たり前の流儀であり、神社は人々の精神的な拠り所となっている事がよく理解出来たと思っている。そう言えば私の座右の銘の一つに「敬天愛人」がある。

私達はよく知っている。私達は自然から多くの恵みを頂いて生活している。しかし一方で自然は荒ぶるような厳しさも兼ね備えており、一つ間違えると牙をむいて私達人間社会を容赦なく襲いかかって来るのである。そこで私達は知恵を発揮し、自然の恵みは神々からの恵みであり、従って自然への感謝は神への感謝に他ならないと言ふことを身をもって悟っている。自然に対する畏怖と感謝の念を抱きながら日常生活に於いて自然と共生しているのが高島での暮らし振りだと思ふ。祈りと暮らしの水文化が日本遺産に選定された様に、高島の持つ口ハスでエシカルなライフスタイル、さらには結いの社会で互助や利他の精神がしっかりと根づいている風土こそが藤樹先生のような高邁な人材を生み出した源であると、私達は自信と誇りを持てるのではないか。

# 藤樹人間学塾： 藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月原則第一土曜日の午後、開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

## 高島藤樹会の活動

一月四日(土)午後、安曇川公民館で第百一回藤樹人間学塾を開きました。冒頭、昨年十二月にアフガンスタンで凶弾に倒れた、中村哲医師の話がありました。彼は、医師になりました。一九八〇年代後半からアフガンの病院で医療活動をしながらかつて清潔な水を飲めずに病気になる人を救うために井戸を掘り、用水路を建設し、農業を再生して多くの人命を救われた偉人です。

『中庸解』は第二十章に入りました。今回の部分の大意は、教養ある人は身を修めなければならぬ。身を修めようと思えば、父母と自分は一体であることを推し広げて父母以外の人にも仁(思いやり)を施せば、良知本体に至ることができる。

フリートーカーでは、「子供の相

談に乗っていると、幼少期の根になる出会いが人生を左右すると感じる」という意見等が出て、話し合いました。二月一日(土)午後、安曇川公民館で第百二回藤樹人間学塾を開きました。

今回も冒頭、中村哲医師の話をしました。福岡で行われたお別れ会には五千人も人が訪れ、アフガンのために三十年以上支援活動をつづけた中村さんを偲んだそうです。中村さんは常々「口で立派なことばかり言わんで行動で示せ」と言われていたそうです。

『中庸解』の第二十章の続きです。今回の大意は、人間が生きていく上において大事なものが五つあり(君臣の義、父子の親、夫婦の別、兄弟の序、朋友の信の五倫)、これは大きな木に例えられます。一方それを支える知仁、勇の三徳は木の根のようなもので目に見えないが、これが達成にまで至らないと、五倫は達成できません。そしてそれらを貫徹するものを「一」といい、藤樹先生はそれを「純一無雜の本体そのもの」といわれている。私はそれは「全孝の自覚」だと思つて述べました。



フリートーカーでは、「生かされている自分に気づいた。もっと早く来ればよかった」等の意見が出ました。三月七日(土)午

後、安曇川公民館で第百三回藤樹人間学塾を開きました。急激に新型コロナウイルスの感染が拡大しており、細心の注意を払いました。

今回も『中庸解』の第二十章の続きです。今回の大意は、惑いの道理を心得て徳に進むために学を好めば、良知に近づく。利己の障がいを出し、克服することができれば仁(思いやり)の心)に近づく。人欲に引き回されることが恥であることを知ることができれば勇(人が本来持っている本心)に近づく。知、仁、勇の三徳が得られれば、自然と身を修めることができる。身が修められれば人を治められる。人を治められれば、天下国家を治めることができる。

しかし、私たちが利己の心、人欲を克服することはたいへん難しいことです。そこで、堀澤祖門師(三千院門跡門主)の「致知」での講話「杵を破る」を引用して図解で説明しました。

私たちが暮らしている世界は「二元相對」(現象界||色)の世界です。ここでは人間誰しも自分が一番大事です(「人欲の世界」)。ここでは争いごとが絶えません。国と国との戦争にもなりません。

これを打破するためには、二元相對の杵を破ります。そうすると「一元絶対」の世界になります。これは、「悟り」||色即空の「空」を通ることです。実現します。空が分かったら一元絶対になつて自分と他人の区別がなくなり

ます。積尊は「愚か者は自分の子供だ、自分の財産だと思ひ悩む。ところが自分自身が既に自分のものではないではないか。どうして自分の子供だ、自分の財産だといえようか」といわれています。『孝経』にも「わが身に備わっているものは、心も性(本性)も体も毛髪も皆、親の心・性・体・毛髪を受け継いだものなので、身体髪膚の本をただせば自分のものではなく、親の身体髪膚なのだ」と記されています。それをさかのばれば私たちは大宇宙の分身であるということです。

一元絶対に目覚めたら世界に広めていこうと決意することが肝要と堀澤師は述べられています。積尊は悟られた後、約五十年間、布教活動を続けられた八十歳で没されました。

フリートーカーでは、「二元相對の世の中では争いが絶えないことがよく分かった」、「この学びは奥が深い。哲学を学んできたが、現代の分断した世の中をまとめるには、正・反・合の弁証法的対応がよいと思う」等の意見が出ました。

本塾に関心のある方は是非お越しください。心からお待ちしています。

### 藤樹人間学塾 今後の予定

六月六日(土) 七月四日(土)

八月二日(日) 九月一九日(土)

日時 (原則) 第一土曜日の  
十五時~十七時

場所 (原則) 安曇川公民館

## ひじりの声 上田 藤市郎

致良知という言葉の意味を読むと、人間には生まれつき善行を行おうとする気持ちがある。日々の生活で、これを実践していくには、その後の学びと反省が必要なのは言うまでもない。教わらないと解らないこともたくさんある。最近の世相を見て、危惧することがひとつある。政治家から企業家、一個人に至るまで「恥ずかしい」という自意識を待たない人が増えていることだ。自分に有利なことや身内や仲間を守るためなら、嘘をつくことを躊躇しない、自分の努力に価しない報酬や待遇、賛辞を受けられることを憚らないような事象が見られるようになってきたことだ。他人から指摘される前に、自分の言動を省みて、自らを恥じる勇気が尊いとされた時代があったのだが。我が国に限らず、自分の否は決して認めず、相手を反駁することで、力は正義だという主張が、世界的に広がっているのは残念だ。昔の親は、だれもが高等教育を受けていたわけではないが、口を酸っぱくして子供に言い聞かせてきたことは、「うそをつくな。弱い者いじめはするな。自分さえ良かったらいいという考えはあかん。」だった。人間にとつて、一番大事なことは、金でも社会的地位でもなく、恥ずかしいことをしないことだった。

### 【高島藤樹会事務局より】

前号でお知らせしましたように、本会の思想普及委員会が、藤樹先生

とその教えを再顕彰するため、先生の座像を制作し、販売されました。今年度からは、販売事業を事務局が引き継ぐことになりました。

## 中江藤樹座像の追加販売

会員をはじめ、多くの皆様にご購入たまわり、玄関や居間、床の間等に先生座像を安置して、先生を身近に感じながら、その教えを日々心の支えにしていただいたり、御宅を訪問された皆様に座像を交え、素晴らしい先生の生き方や教えをお話していただいたりする機会になれば幸いです。

### ◆座像の仕様等

- 一、陶製（信楽焼）
- 二、原型制作者は、高島市内の元中学校美術科教師
- 三、製品製作者は、信楽焼
- 四、高さ一九二mm、幅一二九mm、奥行き一三三mm
- 五、台座板（楠無垢材）、収納箱（紙箱）
- 六、販売価格（一体）\*消費税込み  
・高島藤樹会会員 一万円  
・一般 一万二千元
- 七、購入お問い合わせ先  
藤樹会事務局（良知館内）

☎〇七四〇―三二―四一五六

## 「藤樹紙芝居」の活用について

―「道徳性を養う  
指導展開プラン」―

### 高島藤樹会思想普及委員会

高島藤樹会では、近江聖人中江藤樹先生の遺徳を顕彰するために、高島市教育委員会に支援していただき、平成二十一年第一作「そばやのかんばん」を皮切りに、平成二十六年第十八作「竹生島での出会い」に至るまで、都合十八作の「藤樹紙芝居」を制作してまいりました。そして、市内の全小中学校・幼稚園・保育園等に配付したり、全国の購入希望者に販売したりして、広く活用していただく活動を続けてきております。

平成二十九年文科省から小学校学習指導要領が告示されました。その中に、『社会に開かれた教育課程』の実現をめざすこと。そのため、学校は、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携および協働によりその実現を図っていく。』と明示されました。

これを受けて、本委員会では、昨年度、十八作の紙芝居の中で、藤樹先生が実学により探究された「良知」に従う道徳性を子どもたちに身に

けさせることが期待できる六題材を選択し、紙芝居の上演に併せて、その内容について深めていただけることができる『道徳性を養う指導展開プラン』を作成いたしました。学校や保育園・幼稚園での読み聞かせボランティアのみなさん、子供会やスポーツ少年団の指導者のみなさん、ボーイ・ガールスカウトの指導者のみなさんやご家庭等で、広くご活用いただけますとありがたく存じます。

なお、紙芝居のご購入や貸し出し、藤樹会会員による上演依頼等についての詳細は、藤樹会までお尋ねください。

紙面の都合から、本号では、『指導展開プラン』の中から『そばやのかんばん』（小中学校）と、『馬方又左衛門』（小学校高学年）を、以下に紹介します。



藤樹紙芝居『馬方又左衛門』

# 「藤樹紙芝居」を使った道徳性を養う指導展開プラン（その①）

## 1 主題（子どもに身につけさせたい内容）

「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」

道徳的価値：中学年 親切、思いやり

## 2 紙芝居題

藤樹紙芝居① <そばやのかんばん>

## 3 主題に迫る

藤樹紙芝居「そばやのかんばん」は、藤樹先生が一枚の看板を書くのにも、いい加減にされないで、そば屋の主人に喜ばれるように納得がいくまで練習された姿が描き出されている。人への思いやりをもって先生の努力された行為と自分の経験とを照応させながら、親切や思いやる気持ちの大切さを考えさせたい。

一方、この資料は、藤樹先生がご自身で納得されるまで何枚も練習された行為を強調すると、主題を「自分でやろうと決めた目標に向かって強い意志をもって粘り強くやり抜くこと」道徳的価値：中学年 努力と強い意志 に設定して展開することも出来る。

## 4 紙芝居の概要

ある日、藤樹先生は、隣村のそば屋の主人から「そば屋の看板を書いていただきたい。」と頼まれた。藤樹先生は、十日も練習して見事な看板を書き上げた。

ところが、加賀の殿様が京都へ向かう途中、そば屋で休んだとき、その看板が目にとまり、そば屋に譲ってほしいと頼んだ。少し考えたが、そば屋は、「また、書いてもらえばよい。」と思い、大金で売ってしまった。

再び、先生に看板の制作を頼みに行った時に、前の看板を書くために練習された何枚もの下書きの入った「はんびつ」を見せられた。そば屋はそんな先生の真心のこもった看板を許しを得ないまま、売ってしまったことを悔やむ。

## 5 指導過程

展開のしかた	問いかけ	留意点
<p>1. 資料（紙芝居）の題名を知る。</p> <p>2. 紙芝居の上演を視聴して話し合う。</p> <p>○おとのさまは、看板を見てどう思われたでしょう。</p> <p>○そば屋の主人から、看板をおとのさまに譲ったという話を聞かれたとき、藤樹先生はどんな気持ちになられたでしょう。</p> <p>○はんびつの中の藤樹先生が練習された下書きを見た時、そば屋の主人はどう思ったでしょう。</p> <p>○藤樹先生が一枚の看板を書くために、どうして何枚も練習されたのでしょうか。</p> <p>3. 学習をとおして、学んだことを話し合う。</p>		<p>・そば屋の看板が、見事に書かれてあったことをしっかりおさえる。</p> <p>・自分のために、藤樹先生が何日もかけて書いてくださった看板を手放してしまったそば屋の主人のやるせない気持ちに気づかせる。</p> <p>・そば屋の主人に喜んでもらえるように昼夜を問わず、精一杯取り組まれたことに気づかせる。</p>

## 「藤樹紙芝居」を使った道徳性を養う指導展開プラン(その②)

### 1 主題 (子どもに身につけさせたい内容)

「誠実に明るいい心で生活すること」

道徳的価値：高学年 正直 誠実

### 2 紙芝居題

藤樹紙芝居⑦ <馬方又左衛門>

### 3 主題に迫る

高学年になると、一つひとつの行動に責任ある態度が要求されるようになる。そのため、あやまちを犯したとき、「みんなもやってる。」と言って、他人のせいにしたり、自分の責任を少しでも軽くしようとしたり、罪を逃れようとしたりする傾向にある。また、努力を惜しんで宿題などをまる写ししたり、忘れ物をしたとき、うそをついてごまかしたりすることもある。

本紙芝居は、馬方が、加賀の飛脚が忘れた二百両もの大金が入った財布を、疲れを癒すこともなく飛脚がいる遠い榎宿まで届けに行き、さらに飛脚からの礼金すら受け取ろうとしなかった。この題材をとおしてこの正直で誠実な行為に感銘させるとともに、人間として利欲にかられることなく正直で誠実に生きることの尊さを理解させ、常にそのように行動しようとする心情を育てたい。

### 4 紙芝居の概要

ある日、川原市に住む又左衛門が、加賀の飛脚を馬に乗せ、川原市から榎の宿へ送り届けた。家に帰り、馬の背中から鞍をおろしたところ、飛脚のものと思われる二百両も入った袋が落ちてきた。又左衛門は飛脚が「大変お困りのこと」だと思い、急いでその袋を持って走り、飛脚の居る宿へ向かった。宿では、飛脚が大金を無くしたことに気づき、途方に暮れていた。その時、又左衛門が宿に着いた。「この袋は、飛脚さんのものや。きっと困っておられるだろう」と思い、休まずやってきたことを飛脚に告げ、飛脚に手渡した。「大金を無くし切腹をしなければならない。」とまで思っていた飛脚は、涙をポロポロ流し心から喜んだ。「是非お礼がしたい。」と申し出た飛脚に対し、又左衛門は「当たり前のことをしてただけ」と殆どを受け取らずに家に帰ってきた。

### 5 指導過程

展開のしかた	問いかけ	留意点
<p><b>1. 自分たちの経験を話し合う。</b></p> <p>○今までに困っている人を助けてあげた経験はありますか。また、その時は、どんな気持ちでしたか。</p>		
<p><b>2. 紙芝居の上演を視聴して話し合う。</b></p> <p>○財布を見つけた時、又左衛門はどんなことを考えたでしょう。</p> <p>○財布を無くしてしまった飛脚はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○又左衛門が財布を届けに来てくれた時、飛脚はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○又左衛門は、どうしてお礼をもらわなかったのでしょうか。</p>		<p>・欲を出さず飛脚に返しに行こうとした正直で誠実な又左衛門の心情を考えさせる。</p> <p>・財布を無くし、困り果てていた飛脚の気持ちを考えさせる。</p> <p>・又左衛門のとった行為への感謝の気持ちを少し時間をとって考えさせる。</p> <p>・欲のない、正直で誠実な人とは、どんな人をいうのか考えさせる。</p>
<p><b>3. 正直・誠実について新しく気づいたことを話し合う。</b></p> <p>○正直で誠実な人とはどんな人でしょう。</p>		

## 「藤樹紙芝居」の紹介 ⑬

### 『毎朝、かゆを炊くおばあさん』

(解説)

『鑑草』は、藤樹先生の著書では、晩年に出版されたものです。身近な家庭経営の在り方、しつけ等が描かれています。この話は、主人公のらしさんの家の仕事場を中心に描かれています。工員を雇用して、経営していることを考えますと、藤樹先生が活躍された時代に近い話ではないかと、思われる内容です。東山<sup>とうざん</sup>さんは、らしさんの息子で、父の跡を継いで工場を経営しています。

らしさんは、工員たちの健康を気づかいながら、自らも紡績の仕事に打ち込んでいます。厳しい寒さの季節を迎え、暗い雪道を歩いてくる工員を気づかう「らしさん」。心身を温めていたわりたいという、愛情深く接するらしさんの姿を知った東山さん。母の温かな優しさや人間性を学びます。

現代の暮らしの中にも生かしたい、温かい心の交流が随所に感じられるお話です。

▼出典 『鑑草』（関西大学 著・発行）

▼参考文献 『中国服装史』（華 梅 著）

(紙芝居)

① 今から、何百年も前から伝わる中国のお話です。中国のある所に、『らしさん』という仕事熱心なおば



あさんがいました。らしさんは働き者で、息子の「東山さん」が経営する紡績工場の仕事をしています。織物の糸を作る仕事です。毎朝、だれよりも早く起きて工場へ行きました。外は真つ暗です。震え上がりそうな寒い朝です。前の晩から冷たい雪が降り続けています。らしさんは、大きな鍋をかかえて、家から出てきました。

らしさん「まあ、寒いこと。たくさん雪が積もったわね。早く釜戸に火を起こして、おかゆを炊きましよう。いつもよりたつぷり炊きましよう。雪の中を歩くと、よいにお腹がすくからね。」  
お米が入った重い鍋を、工場の方に運び込みました。凍るような寒さです。

② 冬になると、夜明けが遅い中国のこの地方は、朝が特別に寒い所です。らしさんは、工場に入ってきたまです。大急ぎで、釜戸に火を起こしました。おかゆの鍋を釜戸に乗せ、枯れ草や小枝を入れて、火を付けました。良く燃え始めたので、今度は

まきをくべました。  
らしさん「けさは特別に寒いね。震え上がるよ。早く起きて良かったわ。うまく燃え始めたね。今ごろ若い子達は、みんな震えながら、冷たい雪を踏みしめて、歩いていくことだろうね。」  
しばらくすると、火加減が強くなり、鍋の中のお米はぷくぷくと、音を立て始めました。



らしさん「ああ、よかった。火の調子がいいようだね。もうすぐ熱々のおかゆが炊きあがるよ。良い匂いがしてきたこと。けさは、特別寒いから、みんなのおわんに、おかゆをたつぷりと入れてあげましよう。もう、いつ入って来ても食べられるよ。みんなの嬉しそうな顔を思い浮かべると、私も嬉しくなるね。」

③ らしさんの息子の東山さんは、お父さんの仕事を受け継いで、紡績工場（糸を作って、糸巻きに巻いて製品にする工場）を経営しています。東山さんが、震えながら工場に入ってきました。

東山さん「あれ、お母さん。こんな

に寒い日なのに朝早くから、おかゆ炊きですか。体が冷えてしまいますよ。明日からは、やめてくださいいね。」

らしさん「工場は、家の隣に建っているのだから、ここまで来るのに、三分ばかりだよ。何の苦勞もないですよ。東山、うちの工場に来る若者達は、真つ暗な道を歩いて、雪にまみれてここにたどり着くのです。冷えた体、かじかんだ手足で仕事するのはつらいものですよ。私は、温かいおかゆで、おなかと手足を温めてやりたいのです。」

東山さん「しかし、お母さん。うちの工場はきちんと給料を払って、仕事に來てもらっているのです。毎日、毎日、こんなことはしなくてもいいですよ。」

らしさん「東山、お前は私の大切な息子ですよ。働いている若者達も同じですよ。暗くて寒い雪道を、冷たい雪や風に吹き飛ばされそうになりながら、ようやくここへたどり着くのです。冷え切った体、かじかんだ手足のまま仕事をするのは、本



本

当につらいものです。せめて、その苦勞を、少しでも和らげてやりたいのだよ。」

**東山さん**「お母さんは、もう年を取っておられます。体を冷やすと、風邪を引いたり、お腹をこわしたりする心配があります。こんな苦勞は、やめてください。」

**らしさん**「わたしは、この仕事を少しもつらいとか、苦勞なことだと思つたことはありません。喜んでしているのですよ。」  
その時です。工場の外で、若者達の声がしてきました。

④ 工場に、若者達が次々に入つて来ました。寒さで息が白く見えました。

**若者 華山**「おはようございます。けさは寒いですね。震えます。」

**らしさん**「おはよう。寒かつただろう。荷物を置いたら、おわんを持って早くここへ来なさいね。さあ、さあ、早く釜戸の方に来て、手や体を温めなさい。」

**若者 華山**「ワア、とてもおいしそうですね。おいがしますね。僕ははらぺこです。」

**若者 円子**「こんなに早くから、おかゆを炊いてくださったのですか。うれしいわ。釜戸の火も、温かくて。ぼかぼかだわ。」

**若者 子徳**「私もうれしいわ。らしさん、ありがとう。おいしそうなおいのですね。」

**らしさん**「けさは特別に寒いから、たつぷりとおかゆを炊きましたよ。食べたいただけ、お代わりもできませんよ。遠慮しないでね。」

**若者 民栄**「うれしいな。寝坊してご飯も食べずに歩いていたら、もう、ふらふらでした。らしさん、お代わりをお願いします。わあ、たくさんのお代わりをありがとう。」



「ありがとうございます。おかげで、元気いっぱい働けます。」  
若者達の様子を見ていた東山さんは考え込みました。

**東山さん**「お母さんは、『早起きをして、おかゆを炊くのは私の楽しみですよ。』と言っておられた。そうか、お母さんは、若者達の嬉しい笑顔を見ながら、自分の子どもを大切にしような気持ちで、やさしく話をされているのか。知らなかつたよ。」

らしさんが、こんなにも若者や社員みんなを喜ばせ、慕われているのを知らずにいた社長の東山さんは、社長としての自分を、はずかしく思いました。

⑤ 若者達は、温かいおかゆをお腹

いっぱい食べて、見違えるほど元気な顔色になりました。みんなでぎやかに話をしています。

**若者 華山**「僕は朝寝坊したので、お母さんにたたき起こされたんですよ。何も食べずに歩いていたので、途中でふらふらしたんだ。らしさんのおかゆをたくさんいただいたおかげで、元気になるので本当に嬉しい。らしさん、ごちそうさまでした。おなかも手も足も、すっかり温まりました。これで仕事にがんばれます。」



嬉しい。らしさん、ごちそうさまでした。おなかも手も足も、すっかり温まりました。これで仕事にがんばれます。」

**若者 円子**「らしさん、私も着いた時は、手足が寒さで動かなくなりそうだったけれど、今は、体中がほこほこと温かくなりました。これで仕事に集中できます。」

**らしさん**「みんな嬉しいことを言ってくれるね。でも、無理をしないで、ぼちぼちとやりなさいよ。」  
釜戸には、真つ赤な炭火がたくさん残り、工場の中を暖めています。工場全体が、春のような温かさです。

⑥ 工場の中の様子を見ていた東山さんは、考え込みました。

**東山さん**「お母さんは『早起きをしておかゆを炊くのは、私の楽しみです。』と、言っておられたな。寒くて暗い凍えるような朝なのに、釜戸のたぎぎの用意、お米や麦の準備などを、全部一人でしておられる。これまで一度だって、『大変だ』と言われたことがない。なぜだろう。」



東山さんは、腕組みをし、首をひねって考えました。東山さんは、紡績工場の社長として働いています。だから、工場の糸を作る仕事で、できるだけでなく、たくさんお金もうけができることを考え、いつも工夫してきたからです。

**東山さん**「お母さんは、若者達のうれしそうな笑顔や元気に仕事場で働く姿を見て、喜んでおられたのかな。まるで、自分の子どもを見るような、やさしい目で見ておられたぞ。その上、思いやりのある温かい言葉をかけておられたな。」

⑦ 工場の中では、紡績の仕事が始まり、忙しくなりました。働きに来ている若者達は、みんな張り切つて

## 藤樹書院・良知館通信⑩

### 『五事を正す』のもとについて

淵田 豊朗

現代に生きる私たちが日ごろから大切にしたい藤樹先生の教えの一つです。

『物は事なり。洪範（こうはん）に謂（い）う所（ところ）の貌言視（ぼうげんし）聴思の五事これなり。』

藤樹先生の『経解』という「大学」に出てくる「格物致知（格はただす、知は良知のこと）の解説にあるものです。「誰もが生まれながらに持っている良知の鏡は洪範に書かれている五事を正すことよって磨くことができる。」と続きます。

その『洪範（すべてに当てはまる規範）』は五経の一つ書經の中にあり、そこには

『貌は體（からだ）のことで「威儀のうやうやしいこと」、言は口で「へりくだり争わぬこと」、視は目で「より遠くにまで及ぶこと」、聴は耳で「物の筋目をよく聞き分けること」、思は心で「思慮の綿密なこと」である』とあって、これにより君主は民に尊敬され、国を治めることができるとされています。（國譯書經より引用）この「貌言視聴思」が私たちが使っている五事のもとだと考えら

れます。

先生は「人間の欲は悪であり、つねにそれを封じ込めなければならぬ」という朱子学を厳しすぎると感じ、新たな道を求めました。三十一歳の時です。そして、三十七歳の時に、王陽明の「心の自由を大切に自分の責任で行動する」に感銘を受け、独自の陽明学を追求しました。そして論語、大学、中庸などの解説を著し、また人々にそれを伝える中で、『貌言視聴思の五事を正す』の教えができたと考えられます。

書院内の額には

「貌：柔らかく穏やかな顔

言：温かく思いやりのあることば

視：澄んだやさしい眼ざし

聴：心をかたむけてきく

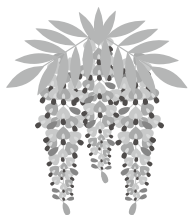
思：慈しみ思いやる心」

とあります。ただ、藤樹先生は、「五事を正す」の具体を示されてはいません。

人それぞれ、同じ人でも年齢によつてそれぞれの

「my『五事を正す』を作つて実行しなさい」

が藤樹先生の教えなのかもしれませ



## 賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- ウエストレイクホテル可以登楼
- 大津公証会 白髭博文
- 株式会社 大山建設
- 川島酒造 株式会社
- 株式会社 Grow's
- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 有限会社 白浜荘
- ソエダ 株式会社
- 田中マネジメント事務所
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事 株式会社
- 寺子屋まなごし童心塾
- 株式会社 戸井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 中村印刷 株式会社
- 株式会社 中村測量設計
- ニツケイ工業 株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 保木機料 株式会社
- 有限会社 綿庄食品店

(五十音順)

### あとがき

コロナウィルスの感染が一日も早く終息して、活気のある日常を取り戻せるように、自分のできることをがんばりたいです。

(H・M)

働いています。次々に糸が作られています。糸を作る材料の綿や絹を準備をする人も忙しそうです。らしき人も、おかゆの鍋をかたづけ、さっそく紡績の仕事を始めました。

らしきさん「けさは、本当に寒い朝だったね。みんな震えながら工場に入つて来たので心配したけれど、たつぷりと炊いたおかゆのおかげで、良い顔色になったわね。ほつとしたよ。私も、体がよく温まったよ。さあ、仕事、仕事。わたしもがんばりますよ。」

工場の外は冷たい雪。しかし、春のように温かい工場の中は、紡績の機械の音が、にぎやかに響いています。らしきさんは、古い紡績機械

ですが、みごとに手さばきで糸をクルクル巻いています。次々に、きれいな色の糸ができあがり、箱に納められていきます。(おしまい)



制作・発行 藤樹紙芝居制作委員会

脚本・挿絵 高島藤樹会教材委員会

制作委員 足立清勝・飯田典子・

石黒紀代子・北川暢子・清川貞治・

高谷美智子・山本義雄 (五十音順)